

倉岡愛穂墓前祭 「追悼の言葉」

倉岡愛穂さんの墓前に謹んで哀悼と連帯の挨拶をさせていただきます。

倉岡愛穂さんあなたは、神戸の御影署に不当に逮捕され、過酷な拷問の取り調べで逮捕106日目の37年4月9日虐殺されました。警察は、拷問死があげられるのをおそれ死去後10時間も過ぎてから遺族に連絡をとり、「葬式を出さないという条件で死体を引き取れ」と命じたのです。

今あなたは、命を奪われて30年後に故郷のこの場所に墓碑が建立され、多くの方々があなたの功績、足跡を学び訪れています。倉岡愛穂さんあなたが志したその道は多くの方が引き継ぎ今も連綿と闘いの炎は引き継がれ、燎原の火のように広がっています。

私たち治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟は、いま治安維持法の過酷な弾圧を受け命を奪われた人々、違法無法な特高警察による弾圧を受け、その人生を奪われた人々の闘いとその足跡を顕彰するための取り組みを進めています。

安倍政権から引き継いだ菅政権は、政治とカネの問題で自らの長男が関わった官僚接待や付度政治が引き継がれて官僚の体制もグタグタ状態で、国会に提出した法案も間違いだらけの法案が国会に提出され、混乱を極める事態です。

菅政権は発足して、最初の仕事は政権に批判的意見を述べた学者、研究者を学術会議の任命拒否というまさに政権の暴挙を行い、いまだに政府としての説明もなく不正常的な状態のままにあります。

戦前には学問の自由が絶対的天皇制のもと、蹂躪されてきた歴史のもと、憲法に学問の自由が明記されてきました。治安維持法による弾圧の第一号が京都学連事件であり、そのことを理由にマルクス経済学の権威だった河上肇先生が京大から排除されました。その5年後に治安維持法を使って、法学部の滝川先生が国の圧力で大学を辞めざるを得ない事態となりました。その時、京大の法学部教授会は抗議の全員辞職の提出という事件がありました。

このような中で、学問の自由が国の在り方として守られ憲法にも明記されてきましたが、菅首相はこの学問の自由にたいして、政権の意に沿わない学者研究者を排除すると言う、まさに戦前の絶対主義的天皇制の明治憲法と同じ様に暴挙を行ってきました。

私たち国賠同盟は自由と民主主義の原点として、国家の横暴で何も罪ない人たちが人権も自由も奪われ、拷問、虐殺という厳しい中でも、その節を曲げず戦った人たちの思いを受け継ぎ運動を進め、国家による横暴を許さない戦い学術会議の任命拒否を許さない戦い等と様々な運動と連帯しながら進めてきました。

いま、新型コロナウイルス感染症の第4波の感染拡大へと国民生活は不安な状況となっています。オリンピックの開催に関わっても、ジェンダー問題で無見識な対応で辞任が続きコロナ対策ではPCR検査は一向に進まず、感染拡大の要因の一つである無症状感染者の把握騒はされず、医療崩壊直線状態にある医療関係への支援はほとんど無いに等しい状況で菅政権の無為無策に国民的怒りは広がっています。日本の政治情勢は再び戦争する国づくりへと反動化が激しくなっています。しかし、あの絶対主義的天皇制の政治情勢から大きく変わり、私たちの運動は大きく前進し市民と野党の共闘、野党連合で政権奪取、自公と補完勢力に痛打与えようと政治的变化と私たち国民の運動の前進があります。

自民党安倍政権をはじめとする歴史修正主義者の策動を許さず、私たちの要求と運動が花咲く社会、戦争への道でなく国民が主人公となる社会を作り、倉岡愛穂さんあなたが実践しようとしていた、教育、社会の建設に頑張ります。

衆議院選挙が秋までには戦われます。この選挙での勝利前進を誓い追悼の言葉とします。

2021年4月10日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟京都府本部会長 原田 完